

## 事務作業効率化に向けた帳票システムにSVFを採用 短期間でのシステム実現と利用者の裾野の拡大に貢献



慶應義塾では、事務部門の効率化を目的としたアプリケーション構築に、ウイングアークテクノロジーズの「SVF for Web/PDF Java Edition」を採用。時代の変化に短期間で対応できる帳票システム開発環境と、利用者の裾野の拡大を実現した。今後はさらに、競争に勝ち抜く学校経営を支援するためのシステム構築を推進。よりグラフィカルで分かりやすい帳票作成システムの実現に向け、SVFに対する期待がさらに大きくなっている。

### 150年の歴史を支える 慶應義塾のIT環境

2008年に創立150年を迎える慶應義塾は、文学部、経済学部、法学部、商学部、医学部、理工学部、総合政策学部、環境情報学部、看護医療学部の9学部を有する大学部を中心に、小学校から大学までの一貫した教育環境を提供する。大学部は2004年10月現在、学生数が約3万2000人、教員数は医学部などの常勤、非常勤をあわせて約7000名、職員は医学部の看護師などを含め約3200名を数える。

この慶應義塾の情報化を一手に担っているのがITC（インフォメーションテクノロジーセンター）だ。ITCは、ネットワークを中心とした、高度情報化に伴う事業の推進、情報関連環境の整備・運用など、慶應義塾の情報システム開発から運用に至る、さま

ざまな支援を行っている。現在、ITC本部を中心に、三田ITC、日吉ITC、医学ITC、理工学ITC、湘南藤沢ITCの5つの支部で構成される。

「ITCが現在の体制になったのは2004年の7月です。それまでは、学生・教員の研究・教育をサポートする部門と、事務部門にサービスを提供する部門が明確に分かれていました。この2つの部門を、慶應義塾全体としてのより総合的な情報化促進を目的に統合しました。慶應義塾では、今後より積極的かつ充実した教育環境を提供することが必要であり、そのためには一貫した情報サービスの実現が不可欠と判断し、2つの部門の統合に踏み切りました。これによって、利用者側から見た場合でも、より分かりやすい情報システム環境が実現できる基盤が確立できています。」（ITC本部 課長、金子康樹氏）。

慶應義塾 三田キャンパス

### INTERVIEW

金子 康樹 氏（写真上）

慶應義塾

ITC本部（インフォメーション  
テクノロジーセンター）  
課長

萩野 剛生 氏（写真下）

ITC本部（インフォメーション  
テクノロジーセンター）  
事務・経営情報支援担当  
係主任



### 事務作業効率化に向けた帳票システムにSVFを採用 短期間でのシステム実現と利用者の裾野の拡大に貢献

#### 汎用機からC/S、そしてWeb対応へと 帳票環境を強化

##### 1. クライアント/サーバシステムによるオープン化の頃から、 事務基幹システムにSVFを採用

「慶應義塾の事務関連システムでSVFを採用したのは、かなり以前のことで、1998年ごろになります。当時、時代の流れもあり、ホスト依存のシステムからクライアント/サーバ(C/S)システムに移行する計画が決定し、事務部門の業務改革を推進しました。移行にあたっては、オープンシステム環境で運用を実現するために早くから帳票ツールの選定にも着手していました。」(ITC本部 事務・経営情報支援担当 係主任、萩野剛生氏)。そもそも、慶應義塾の事務基幹システムには、在学生の履修・成績に関する学事システム、財務会計処理と資産管理を行う経理・管財システム、卒業生と寄付金の管理を行う塾員・基金システムなどがある。ホストからのオープン化移行で、1999年より事務基幹システムがC/Sシステムとして構築され、現在日本IBMのREGATTAとクライアントPC800台、プリンタ250台で構成されている。

ここに、ウイングアーク テクノロジーズの帳票出力モジュール「Super Visual Formade (SVF) 実行部」が慶應義塾の各業務へ広く導入されている。「SVFが採用された最大の理由は、早くからWindows環境やUNIX環境など、さまざまなプラットフォームでのサポートをはじめており、固有のフォームレイアウトの作成にも柔軟です。また、プリンタ機種が異なった場合でもその差異を吸収して均一な帳票出力ができる点にありました。」(萩野氏)。

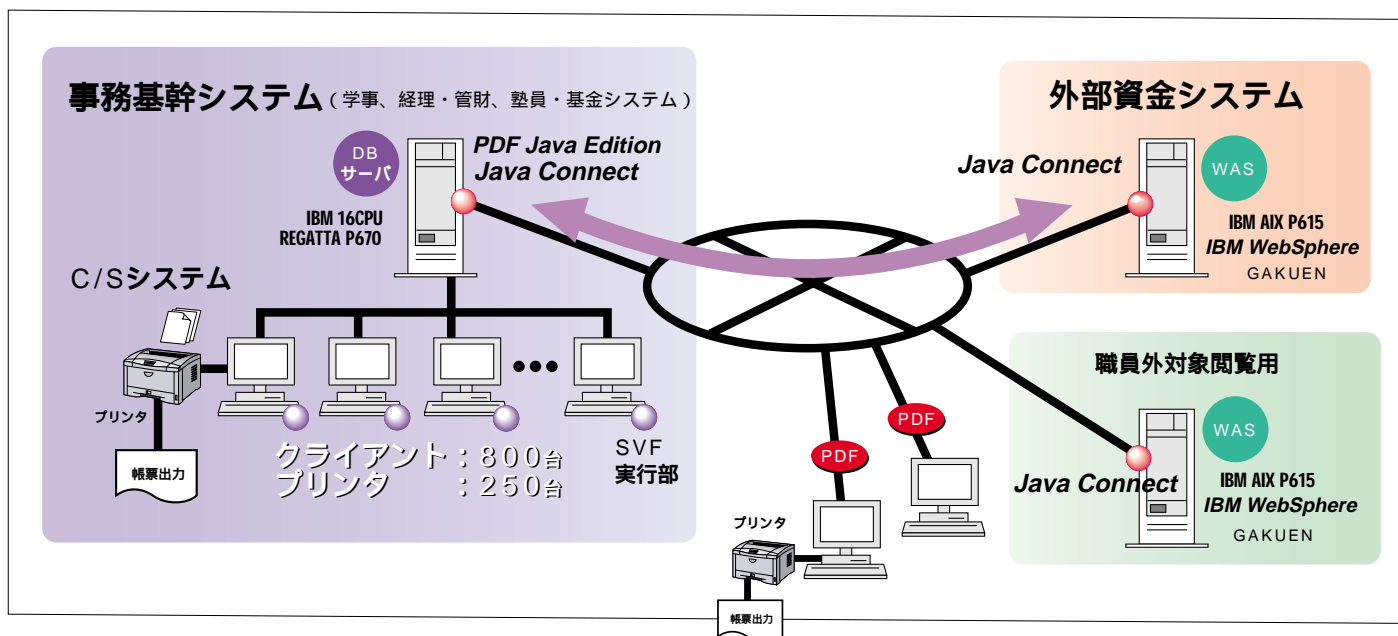
##### 2. Webシステムとして構築した外部資金システム

さらに、このほどWebブラウザを中心にした新たなシステムが構築された。2004年7月より本番稼働したのは経理・管財・研究支援部門向けの外部資金システムである。従来、教育機関の収入はそのほとんどが学生から取られる入学費や授業料により構成されており、それ自体が主な収支構造だった。しかし、近年では教育機関の収入構造も変化しており、国や県、民間企業から委託される研究開発のための資金提供の比重が大きくなってきている。そのため、教育機関は企業と違い、一部に特殊な会計を迅速に行わなければならない背景があった。

外部資金システムは、クライアントPCに専用ソフトをおかず運用管理を軽減すること、利用者が誰でも使える環境を実現するために、日本IBMのAIXをプラットフォームにWebSphereを実装して、帳票システムにSVFを採用した。帳票はPDFによる帳票出力を標準とし、これまでのC/SシステムからWebシステムへ展開するため、既存の事務基幹システムとも連携できるように、一環した帳票運用の対策が図られた。

具体的には、事務基幹システムのDBサーバにPDF帳票生成モジュールであるSVF for Web/PDF Java Editionを導入し、外部資金システムのWeb Application Serverとの間をJava Connectで連携した。これによって、事務基幹システムのREGATTAと外部資金システムは、Java Connectによってサーバ間を繋ぐことで、作り込みすることなく生成されたPDF帳票を運用することができている。

「短期開発の面から見ても、SVFの生産性は高いものでした。また、コネクト製品であるJava Connectを利用することで低コスト



# 慶應義塾

## INTERVIEW

慶應義塾 ITC本部（インフォメーションテクノロジーセンター）課長 金子 康樹氏  
ITC本部（インフォメーションテクノロジーセンター）事務・経営情報支援担当 係主任 萩野 剛生氏

化が実現できました。こうしてインターネット環境に、帳票システムを組み込んだことにより、ユーザーの裾野が広がったという面でもSVFの効果は高いものだったと思います」（萩野氏）。

慶應義塾では、現在も事務部門の生産性を向上させるシステム開発を行っている。ITCでは、外部資金システムに事務部門の効率化をはかるため、日本システム技術が開発した学校事務支援統合システム「GAKUENシリーズ」を基盤に採用し機能拡張した。

「この慶應義塾に導入された法人向けパッケージGAKUENシリーズは、データ構造が公開されているので、データの変更や拡張、ほかのシステムとの連携などが容易に行え、より自由度の高いシステム開発が実現できます。変化が激しいIT環境では、システムの開発を短期間に行うことが必要になります。長期に開発を行っていたのでは、システムができあがった時点で陳腐化してしまう恐れがあるからです。その意味で、GAKUENシリーズやSVFなど、システム構築それぞれに最適な製品を採用するのが慶應義塾のシステム構築における最大の指針となっています」（金子氏）。

### 競争に打ち勝つ経営支援システムを帳票環境で支援 新たな法人システムの構築

慶應義塾では、C/SシステムとWeb対応システムを拡張しながら使用しているが、さらなる機能強化も計画している。現在では、企業における財務会計のような仕組みは持っているが、学校経営の競争力が問われる今日、経営基盤を強化する仕組みの実現がきわめて重要になる。そこで、注目されるのが管理会計のような仕組みの実現だ。

「現在は、まだ管理会計のような仕組みは実現していません。しかし管理会計のような仕組みは、ERPなどの導入なども含め、検討していかなければならないシステムの1つとなっています。現在のC/Sシステムを生かしながら今後、新しい人事、経理、管財業務などを考慮したトータルなシステムの構築が必要になっており、現在開発を進めています」（金子氏）。

すでにスタートしている今後に向けた一連のシステム開発プロジェクトにおいても帳票システム開発ツールとしてSVFを活用していくという方針に変化はない。

「帳票システムにおいては、さまざまな帳票タイプがある中で、それぞれに適したレイアウトや出力方法を容易に実現できなければならないと考えています。例えば、国や県などに提出しなければならない帳票については、決められたフォーマットで、決められた媒体に出力しなければなりません。それ以外の経営者向けの帳票や事務系の帳票に関しては、必要なデータがデータウェアハウスの中にあり、それを自由に組み合わせて、自由にフォーマットできる帳票が必要になります」（金子氏）

今後は、事務作業を支援するシステムだけでなく、経営支援のためのシステムの構築も行っていく計画だ。学校経営は、民間企業とは若干異なった経営支援システムが必要であり、このような仕組みを実現したパッケージシステムは現在のところ見当たらない。そのため慶應義塾が開発している本格的な大学向け経営支援システムは、世界でも有数のシステムの1つになることは間違いのない。

「GAKUENシリーズ」

学校事務支援統合システム「GAKUENシリーズ」は、日本システム技術株式会社GAKUEN事業部が開発した総合学校事務支援パッケージです。入試、教務、就職、学費、奨学金、校友会、Student Serviceの7つのシステムで構成される学務系パッケージと、経理、管財、人事・給与などの法人系パッケージがあります。

「GAKUEN」には、自由に活用できるデータから用途に応じた正確な帳票出力を行うために、ウイングアークテクノロジーの帳票出力モジュール「Super Visual Formade (SVF) 実行部」がバンドルされています。

### 慶應義塾 プロフィール

所在地：東京都港区

創立：1858年

学生数：約3万2000人（2004年10月現在）

教職員数：約1万1000人（2004年10月現在）

教育方針：慶應義塾は、福澤諭吉の「全社会の先導者たらんことを欲するものなり」という建学の精神のもと、教育、学術研究、文化、経済、法律、政治、医療健康、科学技術、その他あらゆる分野にわたり社会を先導。

URL：http://www.keio.ac.jp/



ウイングアーク テクノロジーズ 株式会社

（真システム株式会社より2004年独立）

<http://www.wingarc.com/>

【本社】 〒150-0044 東京都渋谷区円山町28-5 1st渋谷ビル  
TEL:03-5962-7300(代) FAX:03-5962-7301

【西日本】 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-8-17 大阪第一生命ビル11F  
TEL:06-6225-7481 FAX:06-6225-7482

【中部日本】 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-3-4 名古屋錦フロントタワー3F  
TEL:052-218-9520 FAX:052-218-9521

【開発元】 株式会社エフ・アイ・ティ

本カタログの情報は、2004年12月現在のものです。

IBM、DB2、eServer iSeries、WebSphereは、IBM Corporationの米国およびその他の国における商標です。

実際の製品と内容が異なる場合があります。本カタログに掲載される仕様およびデザインは、予告なしに変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。